

平成24年5月14日

各位

長期使用住宅部材標準化推進協議会  
平成23年度活動報告(概要)について

長期使用住宅部材標準化推進協議会  
会長 早野 均

長期使用住宅部材標準化推進協議会は、本年5月10日の平成24年度定時総会において平成23年度の事業報告と平成24年度の事業計画について決定した。加えて、今回の定時総会は役員の変更時期になっており、会長には住友林業(株)代表取締役専務執行役員 住宅事業本部長 早野均氏、副会長には(株)LIXIL取締役 上席副社長執行役員 金属・建材カンパニー社長 川本隆一氏、クリナップ(株)取締役 常務執行役員 CS推進本部長 屋代光昭氏、ミサワホーム(株)取締役 常務執行役員 生産・建設本部長 若月恵治氏が就任した。また監査役にはYKK AP(株)上席常務 開発本部長 伊藤春雄氏が就任した。平成23年度新規賛助会員として大安金属(株)が入会し共に活動する事となった。

平成23年度は、東日本大震災発生し事業活動に多少なりの影響があったが、4月28日にCjK マークの商標登録が完了し、10月から運用も開始され活動が停滞することはなかった。

以下、その概要を記載する。

1. 平成23年度の事業報告(概要)

(1) 共通部材使用表示事業

- ・活動の成果として基準書の提出が本格的になるにあたり長期使用対応部材基準書作成要領の見直しを行い、■キッチン用台付シングル湯水混合水栓 ■キッチン・洗面化粧台スライド丁番 全かぶせ仕様 ■平形屋根用スレート ■内部建具 引き戸用戸車/レール ■玄関ドア用錠(箱錠) ■玄関ドア用錠(空錠) ■ドアクローザ ■内部建具レバーハンドルケース錠の8品目の基準書を承認し登録した。また、CjK マークの運用開始に合わせ長期使用対応部材使用表示・普及啓発要領及びCjK マーク利用細則の一部改訂、CjK マークデザインブックを作成した。並行して普及啓発の開始時期に迎え普及啓発要領の改正、社内説明用パンフレット、業界向け長住協説明資料(パワーポイント)の作成し活用を始めた。更に、事業展開の中長期計画となるロードマップを作成し指標とすることとした。

(2) 広報事業

- ・5月22日「CjK マーク」の商標登録についてニュースリリース、9月27日「CjK マーク」の10月運用開始についてニュースリリースを実施し、併

せてホームページの改訂を行った。また、平成24年度定時総会後の記者会見の諸準備を推進した。今後の広報活動の重要性に対し、平成24年度よりWG活動から分科会活動として強化を図ることとした。

### (3) 共通化部材選定事業

- ・住宅で使用される部材を「部位・部材・部品・子部品」のレベルで定義し、400部材弱の選定対象部材リストを作成した。また、社団法人日本DIY協会等にヒアリング及びカタログ分析を行い、取り扱いアイテム及び出荷量TOP20の品目、並行して各住宅メーカーのメンテナンス部材を対象とした出荷実績調査もを行い、出荷量TOP50の部材を把握し、新たな視点での部材選定の検討をはじめた。

### (4) 躯体・外装共通化事業

- ・今年度より既存の雨樋WGに加えて、標準化が望ましい部材調査を行い、粘土瓦、太陽光発電を新規検討部材とする事とし、それぞれWGを立ち上げた。雨樋WGは検討の結果、標準化は困難と判断し、再開条件を明文化し活動を休止した。屋根材WGは、全国陶器瓦工業組合連合会に協力を依頼して、粘土瓦を調達して検証を行った。併せて住宅メーカー各社の粘土瓦採用状況調査を実施し、標準化対象を絞った。太陽光発電WGは一般社団法人太陽光発電協会と連携し、住宅メーカー、太陽光発電メーカー各社の数量、寸法を調査した。

### (5) 外装開口部共通化事業

- ・長期使用対応部材基準書作成要領の見直しに合わせ、昨年度までに標準(共通)化を実施したクレセント、戸車、錠(箱錠、空錠)の基準書を作成した。また、ドアクローザ工業会と連携して進めたドアクローザの標準化を行い、基準書を作成した。  
並行して、次年度対象部材としての、網戸部品の網押さえと溝、デファクトスタンダード化している部品であるバルコニーデッキ材について検討した。

### (6) 内装・内部建具共通化事業

- ・戸車WGにて、内部建具引き戸用戸車/レールの標準化を行い、基準書を作成した。箱錠WGにてドアハンドルケース錠の標準化を行い、基準書を作成した。クロスWGに関しては検討の結果、標準化は困難と判断し、再開条件を明文化し活動を休止した。並行して次年度検討テーマの絞込み作業を行った。

### (7) 設備共通化事業

- ・「共通化選定部材一覧」を用いて部材の絞込みを行い、対象と成る設備機器を「キッチン・洗面」「浴室」「トイレ」の3分野に分けWGを立ち上げた。また、重要度評価で上位にランクされた洗浄便座に関しては、その業界団体である一般社団法人温水洗浄便座工業会に協力を要請し共同して検討した。重要度、実現性で絞り込んだ10部材(IHコンロ、ガスコンロ、食洗機、シ

ャワーホース、電気式・ガス式浴室換気乾燥機、浴室換気扇、温水洗浄便座、暖房便座、普通便座、トイレ換気扇)について、図面を収集し実態を調査した。

## 2. 平成24年度事業計画(概要)

### (1) 部材等共通化基準整備事業

- ・標準(共通)化評価委員会及び事業分科会を継続して支援する。
- ・新たな部材選定のための、標準化・共通化ガイドラインの見直しを検討する。

### (2) 共通部材使用表示事業

- ・長住協ロードマップに基づき普及促進計画を施策及び実施する。
- ・CJKマーク利用状況の把握をおこなう。

### (3) 広報事業

- ・平成24年度総会時記者会見を実施した。
- ・平成25年度総会時記者会見に向けた準備をする。
- ・CJKマーク運用支援をおこなう。
- ・ホームページの運用管理をおこなう。

### (4) 共通化部材選定事業

- ・住宅メーカーメンテナンス部材調査を足掛かりに、新たな選定対象部材一覧の作成をおこなう。
- ・今後の対象部材選定のための調査企画を推進する。

### (5) 躯体・外装共通化事業

- ・屋根材(粘土瓦)WGの活動を継続し標準(共通)化を推進する。
- ・太陽光発電WGの活動を継続し標準(共通)化を推進する。
- ・新規標準化対象部材を選定する。

### (6) 外装開口部共通化事業

- ・網戸部材、バルコニーデッキ材については活動を継続し、基準書作成を行う。
- ・デファクトスタンダード化している部品の標準(共通)化についても推進する。  
又サッシのガラス開口とガラスの取り合い寸法についても検討する。
- ・外装開口部で、標準(共通)化が必要と思われる対象部材の選定を引き続き行う。

### (7) 内装・内部建具共通化事業

- ・収納部材、階段手摺、内装建具丁番の3テーマについて、標準化を推進する。
- ・その他、内装及び内部建具の標準(共通)化対象の抽出と、標準化を推進する。

### (8) 住宅設備共通化事業

- ・選定候補10部材の内、本年度は優先度の高い部材について、標準化を推進する。
- ・その他、住宅設備に関する標準(共通)化対象部材の抽出と標準化を推進する。

以上